

山の百名花 番外編

岩崎 元郎

【103】ミヤマキリシマ

「花はキリシマタバコは国分……」、民謡オハラ節のおかげで、キリシマという花があることは、昔から知っていた。しかし、どんな花なのかは、知らなかった。知ろうともしなかった、という方が、正しい状況説明になるかも知れない。

ミヤマキリシマは、ツツジ科ツツジ属。ヤマツツジの高山型で九州の山岳地に広く分布する、と高山植物図鑑に紹介されていた。

若い頃は、丹沢・奥多摩がトレッキングエリアで、時々谷川岳や南北アルプスに足を伸ばすくらいだったから、ミヤマキリシマとはまったく無縁な登山生活であった。

1981年11月に誕生させた無名山塾の中に、中高年バージョンのプログラム、「日本百名山登山教室」を組み込んだことで、ミヤマキリシマの花も愛でることができるようになった。

初見参は、久住山だったと思う。現在は効率を優先させて、牧ノ戸峠から日帰り登

山しているが、初めての時は長者原・九重登山口から雨ヶ池を経て、法華院温泉に一泊、二日目に久住山の頂きに立った。雨ヶ池の池畔に咲くミヤマキリシマに感動したことを、きのうのことのように憶えている。以降、由布岳で、阿蘇・仙酔峡で、雲仙・仁田峠で、何度となくミヤマキリシマに出逢っている。



【104】チョウカイフスマ

鳥海山の岩礫地に咲く固有種である。高山植物図鑑には、「雌阿寒岳、知床山地には、チョウカイフスマによく似て小ぶりの、メ

アカンフスマが咲く」とある。ナデシコ科の花で、花は小さく直径1.5cmくらいである。鳥海山は東北地方はもちろん、日本を代表する名山だ。日本海に望む独立峰で標高2236m、東西南から登山道が伸びている。山形県側から、吹浦口、長坂道、万助道、二ノ滝口、蕨岡口・湯ノ台道、秋田県側に百宅口、猿倉口、矢島口、象潟口がある。比較的登り易い

ぼく自身がトレースしているのは、象潟口、吹浦口、矢島口の3コースだけ。初めての鳥海山は、象潟口から登った。登山口の標高が1160m、賽ノ河原に差し掛かる辺りから高山性を帯びてきて、高山植物も可憐に咲いていたりして、歩きが楽しくなる。賽ノ河原からひと登りで、御浜小屋。目の下に鳥海湖が、青い水面を輝かせている。七五三掛から千蛇谷雪渓に下り、右岸を登り詰めれば大物忌神社。そこにチョウカイフスマがたくさん咲いていた。

矢島口、祓川から大雪路を登るコースも楽しかった。登り詰めて立つ七高山がいい。次の機会には、滝ノ小屋から登ってみようかな、と考えている。